

2026年度春入学者対象

福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻
【博士後期課程】
案 内

(付) 2026年度春入学者対象福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻【博士後期課程】
学生募集要項
(一般選抜入試・社会人特別選抜入試・留学生特別選抜入試
・福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜入試)



〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号
電話 (092) 661-2411(代表)
URL <http://www.fwu.ac.jp/>

目 次

I	福岡女子大学の沿革	1
II	福岡女子大学大学院人文社会科学研究科 博士後期課程のアドミッション・ポリシー	1
III	福岡女子大学大学院人文社会科学研究科 博士後期課程の構成と教育体制の特徴	2
1	構成	2
2	教育体制の特徴	3
3	履修方法と修了要件	3
4	社会人の入学について	3
5	長期履修制度	3
6	指導教員の研究領域と主な研究内容	4
7	講義等の内容	5
8	交通案内	16

(付) 2026年度春入学者対象福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻【博士後期課程】学生募集要項
(一般選抜入試・社会人特別選抜入試・留学生特別選抜入試・
福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜入試)

- 入学願書、受験票
- 研究志望調書
- 入学者選抜出願資格認定申請書
- 受験許可書
- 在職期間証明書
- 入学考查料振込依頼書

I 福岡女子大学の沿革

本学は、1923（大正12）年に、我が国初の公立の女子専門学校として開校された福岡県立女子専門学校（文科、家政科）を母体として、1950（昭和25）年、第二次世界大戦後の学制改革により4年制の大学に昇格して福岡女子大学として開設されました。1993（平成5）年に、情報化の進む厳しい時代を生き抜くために「高い専門性」と「鋭い思考力」、さらには「総合的な判断力」を身に付けた学生を養成すべく、教育・研究の充実を図って、大学院文学研究科修士課程（国文学専攻、英文学専攻）が設置され、さらに1997（平成9）年には、大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程が設置されました。

本学の教育目的の特徴は、前身である福岡県立女子専門学校の初代校長小林照朗が学生に告げた建学の精神「新時代の男女の機会均等へ第一歩を印する諸姉は、校舎の貧しさに心ゆるがすことなく、内面的教養の充実に専心し、理想高くリファインされた淑女として、社会の先覚者として自覚を以って勉学されたい」に示されているとおりです。この精神は現在まで引き継がれ、学則第1条に、本学の目的は「広く知識を授け、専門の学芸を教授研究」するとともに、「知的、道徳的及び創造的能力を備えた女性を育成し、もって文化の向上と社会の発展に寄与すること」と謳っています。この本学の理念に加えて、2008（平成20）年11月、福岡県は「福岡女子大学改革基本計画」を策定し、時代の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献できる女性の育成のために検討を重ね、2011（平成23）年4月に新たに国際文理学部が開設されました。

さらに、2015（平成27）年4月に既存の大学院文学研究科を充実・発展させた「人文社会科学研究科」を設置しました。このように本学は歴史と伝統をもち、その間に送り出した卒業生・大学院修了生は各方面で活躍し、広く社会に貢献しています。

II 福岡女子大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程のアドミッション・ポリシー

高度な専門性を基に社会で活躍する女性リーダーや研究教育機関で研究教育者を目指す者や社会人を募り、大学院で主体的に研究を遂行するために必要な研究能力、専門学力や国際的な教養を重視する。

特に、次のような能力・意欲を有する者や社会人を求める。

- (1) 人間の文化や言語あるいは国際的な経済、政治、社会や企業活動等から生じる問題や現象を対象として、独創的で自立した研究・分析を行う能力を有すること。
- (2) 研究に対する高い倫理観を有し、真摯に取り組む自律した姿勢を持っていること。
- (3) 研究成果を女性が活躍する男女共同参画型社会の創造のために提案・還元する意欲と優れた実践能力を有すること。

専攻ごとのアドミッション・ポリシー（求める学生像）は以下のとおりである。

＜言語文化専攻＞

歴史や言語文化に対する強い研究意欲と優れた分析能力をもつ、自立した研究者を目指す学生を募る。社会において専門知識と実践的な分析能力を活かして、次代の女性リーダーとして国内外で文化を発信し広く活躍することができる学生、教育の実践現場での活躍や指導的立場からの社会貢献を志し、研鑽を積み能力を高めるよう努力することができる学生、生涯を通じて高いレベルで研究活動を実践できる能力の獲得を目指す学生を求める。

＜社会科学専攻＞

現代の国際社会のあり方や企業等の経済活動に強い関心を持ち、国際社会の複雑化する課題に関する自立的・独創的な分析能力や解決に向けて優れた実践的能力を高めようと努力することができる学生を募る。修了後は、多様な進路において、高度な専門能力を基に次代の女性リーダーとして国際社会で活躍することや、専門的な研究・実務活動を行うための高い専門能力を獲得することに意欲的な学生を求める。

＜入学者選抜の基本方針＞

- ・一般選抜入試・社会人特別選抜入試・留学生特別選抜入試・福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜入試

入学者の選抜は、筆記試験・面接のほか書類審査の結果等によって、専門領域に関する高度な知識・技能、創造的で豊かな思考力・判断力・表現力、主体的に研究を構築し推進する姿勢等について総合的に判断して行う。筆記試験では、研究を遂行する上で必要とされる語学能力及び表現力を評価する。面接では、当該分野の研究に対する熱意、希望する研究計画の妥当性、当該分野の研究に必要とされる学力や技能及びコミュニケーション・表現能力を評価する。

III 福岡女子大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程の構成と教育体制の特徴

博士後期課程では専攻内に領域を設けず、指導教員と専攻内の教員との緊密な連携のもとに教育や研究指導にあたる。

1 構成

言語文化専攻

- 言語文化特殊研究ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB

特殊研究ⅠA・ⅠBでは、修士論文の成果をさらに発展させるために、各自の研究テーマに関連する分野の論文の講読を行い、研究の課題を探索することを主目的とした調査・考察を行う。

特殊研究ⅡA・ⅡBでは、関連する分野の調査研究の成果を取りまとめ、学会等で報告し、博士論文の構想をまとめること。

特殊研究ⅢA・ⅢBでは、研究の成果を、予備論文審査を経て博士論文として結実させる。

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの後、研究成果を公開審査で発表し広く第三者の評価を仰ぐ。

- 言語文化総合演習A・B・C

他分野の教員からも指導を受けることで、各専門分野を相互に連携させながら、研究課題を多角的な視点から深化させて、独創的な手法を用いて研究を進展させる。博士課程の研究成果を複数教員の前で発表し、テーマの選定や手法の理解、まとめ方の批評を受け、研究者としての能力を養う。

- 言語文化特別講義A・B・C・D

特別講義は、受講者にもっとも必要と思われる分野の非常勤講師を招聘して、研究を補完し、深化させる内容の講義を行う。

社会科学専攻

- 社会科学特殊研究ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB

特殊研究ⅠA・ⅠBでは、修士論文の成果をさらに発展させるために、各自の研究テーマに関連する分野の論文の講読を行い、研究の課題を探索することを主目的とした調査・考察を行う。

特殊研究ⅡA・ⅡBでは、関連する分野の調査研究の成果を取りまとめ、学会等で報告し、博士論文の構想をまとめること。

特殊研究ⅢA・ⅢBでは、研究の成果を、予備論文審査を経て博士論文として結実させる。

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの後、研究成果を公開審査で発表し広く第三者の評価を仰ぐ。

- 社会科学総合演習A・B・C

他分野の教員からも指導を受けることで、各専門分野を相互に連携させながら、研究課題を多角的な視点から深化させて、独創的な手法を用いて研究を進展させる。博士課程の研究成果を複数教員の前で発表し、テーマの選定や手法の理解、まとめ方の批評を受け、研究者としての能力を養う。

- 社会科学特別講義A・B・C・D

特別講義は、受講者にもっとも必要と思われる分野の非常勤講師を招聘して、研究を補完し、深化させる内容の講義を行う。

2 教育体制の特徴

各学生は入学時に提出する研究概要書に基づいて主たる指導教員及び副指導教員を決定する。

各学生は、指導教員との相談のもと隣接分野の教員の中から 1 名を副指導教員とする。

言語文化専攻

指導教員及び副指導教員の指導のもとで博士論文のテーマ等を含めた研究計画書の作成を行い、論文構想報告を通じて、3 年以内に博士論文提出の権利が与えられる。

指導教員は「言語文化特殊研究」を担当し、博士論文作成に向けて指導を行う。同時に「言語文化総合演習」を通じて、副指導教員に加えて他の関連分野担当教員の研究指導を受ける機会を提供する。

このような教育体制を整えることにより、本専攻では、各学生が言語文化の多様な分野からアドバイスを受けることを通じて、領域横断的な視点を獲得することを目指す。

社会科学専攻

指導教員及び副指導教員の指導のもとで博士論文のテーマ等を含めた研究計画書の作成を行い、予備論文審査の合格を経て博士論文提出の権利が与えられる。

指導教員は「社会科学特殊研究」を担当し、博士論文作成に向けて指導を行う。同時に「社会科学総合演習」を通じて、副指導教員に加えて他の関連分野担当教員の研究指導を受ける機会を提供する。

このような教育体制を整えることにより、本専攻では、各学生が社会科学の多様な分野からアドバイスを受けることを通じて、領域横断的な視点を獲得することを目指す。

3 履修方法と修了要件

言語文化専攻

- (1) 博士論文に直結する特別研究科目である「言語文化特殊研究」（必修・半期 2 単位）Ⅰ A ～Ⅲ Bまでの 12 単位と「言語文化総合演習 A・B・C」（選択必修・半期 1 単位）から 2 単位、合計 14 単位以上を修得し、博士学位論文の審査に合格することとする。
- (2) 博士論文の作成指導については、オリエンテーションその他で適宜行う。

社会科学専攻

- (1) 博士論文に直結する特別研究科目である「社会科学特殊研究」（必修・半期 2 単位）Ⅰ A ～Ⅲ Bまでの 12 単位と「社会科学総合演習 A・B・C」（選択必修・半期 1 単位）から 2 単位、合計 14 単位以上を修得し、博士学位論文の審査に合格することとする。
- (2) 博士論文の作成指導については、オリエンテーションその他で適宜行う。

4 社会人の入学について

(1) 社会人の受け入れ

生涯学習の一環として、大学を卒業し企業、教育機関、官公庁、各種施設等で活躍している社会人が、さらに高度な学識や技術を修得するために大学院へ進学しようとする機運が高まっている。本研究科では、このような向学の志を抱く社会人に積極的に応えるために、下記の特例措置をはじめ種々の履修方法を準備している。

(2) 社会人のための特例措置について

教育方法の特例措置とは、現職教員、公務員、一般企業の社員、団体・施設の職員等の職を有する者、またはその他出産、介護等相当の事由があると認められる者が、夜間、土曜日または夏季・冬季休業期間中に本学授業を受講することができる措置のことである。

5 長期履修制度

意欲ある社会人の入学を促進するために、入学時における自らの計画と申告に基づき、標準修業年限を超える年限で課程を修了することを認める「長期履修制度」を導入している。なお、「出産、介護等相当の事由があると認められる者」についても、これを認めている。

本制度を利用することで、標準修業年限の授業料により、博士前期課程では修業期間を最長 4 年間まで延長して、必要単位を修得し修士の学位を取得、博士後期課程では最長 6 年間まで延長して、必要単位を修得し博士の学位を取得することができる。

6 指導教員の研究領域と主な研究内容(※2025年度情報)

言語文化専攻

教員名	研究領域	主な研究内容
坂本 浩一	日本語学	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の歴史に関する研究 ・日本語の語彙・語法に関する研究 ・地域言語・方言に関する研究
大久保 順子	日本文学	<ul style="list-style-type: none"> ・散文(物語・説話・小説等)、韻文 ・近世文学、古典文学受容史研究
長岡 真吾	アメリカ文学・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・米国の歴史・社会と文学・文化表象との相互作用 ・エスニシティ(民族性)と文化交雑
宮川 美佐子	英文学	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代小説 ・前期モダニズム小説

社会科学専攻

教員名	研究領域	主な研究内容
宮崎 聖子	ジェンダー 地域研究 文化人類学	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー ・台湾地域研究 ・文化／歴史人類学
佐藤 秀樹	経済政策	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済理論の応用研究 (環境政策、産業組織、法律、医療等)
鈴木 有美	社会心理学 健康心理学	<ul style="list-style-type: none"> ・組織と社会における適応に関する研究 ・「情けは人の為ならず」の実証的研究 ・実践活動による態度変容に関する研究
馬場 優	外交史 ヨーロッパ研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ハプスブルク帝国史 ・第一次世界大戦前後の国際政治史 ・現代ヨーロッパ政治
深町 朋子	国際公法	<ul style="list-style-type: none"> ・現代国際法における領域権原論の研究 ・領域紛争の司法的解決に関する研究
ばすましり じややせーな	批判的安全保障論 平和研究	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル市民社会と紛争に関する研究 ・新興国の台頭とインド洋圏の安全保障に関する研究 ・グローバル協力と開発に関する研究
木村 貴	人権法 比較政治学	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの民主化と人権 ・東アジアの移行期正義
徐 阿貴	国際社会学 ジェンダー研究	<ul style="list-style-type: none"> ・コリアン・ディアスボラ、韓国への結婚移民、移住労働に関する研究 ・移民コミュニティ、組織形成、社会運動の分析
山根 健至	比較政治学 東南アジア政治論 国際関係論	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの政治、国際関係の研究

7 講義等の内容(※2025年度情報)

言語文化専攻

授業科目の概要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合演習科目	言語文化総合演習A	博士後期の大学院生を中心とした発表をもとに、研究指導教員・他分野の教員及び大学院生が討議をおこなうことにより、高度に専門化された研究を進める一方で、異分野での研究を知り、領域横断的な視点と広範な知識を獲得できるようする。多彩な研究課題に対する興味をもたせるとともに、分析力・批判力も涵養する。	共同
	言語文化総合演習B	博士後期の大学院生を中心とした発表をもとに、研究指導教員・他分野の教員及び大学院生が討議をおこなうことにより、高度に専門化された研究を進める一方で、異分野での研究を知り、領域横断的な視点と広範な知識を獲得できるようする。共通のテーマによるディスカッションやシンポジウムの形式を取り入れ、的確な判断力と柔軟な応用力を培い、討論力を向上させる。	共同
	言語文化総合演習C	博士後期の大学院生を中心とした発表をもとに、研究指導教員・他分野の教員及び大学院生が討議をおこなうことにより、高度に専門化された研究を進める一方で、異分野での研究を知り、領域横断的な視点と広範な知識を獲得できるようする。論理的な思考力及び構成力を向上させる。	共同
専門科目	言語文化特別講義A	大伴家持の文学活動の原点を、大宰府時代の大伴旅人と山上憶良に求め、比較文学的に捉えていく。当時の漢詩文を理解するためには、外交上、漢文学の素養が必須であり、その延長線に文学活動があつたことを理解した上で作品を読み解く。	集中・隔年
	言語文化特別講義B	この授業では、様々なエスニックルーツや文化的背景を持った人々で成り立つアメリカという国において、これまで生み出されてきた様々な文学作品の中から、とりわけ移動や旅や移民の体験を描いてきた作品、すなわち 1980 年代以降批評的関心が高まる旅行記 (travel writing) や移民文学 (migrant literature) のジャンルからいくつかの代表作を取り上げ、それらが生み出された歴史的・社会的背景について、また旅や移動、移民の表象について、批評書や原典の解説や読解を通して学びます。	集中・隔年
	言語文化特別講義C	文学研究は、文学史に登録された「正典」はもちろん、映画やエンターテインメント小説、音楽など様々なメディアや素材を扱うことができる。この授業では、「日本語文学」という視座を出発点に、多様な文学を読みとくことを通じて、文学研究の基盤となる知識や「技術」の習得を試みる。芥川龍之介「羅生門」の再読、戦後生まれ初の芥川賞作家・中上健次の文学の精読、佐藤春夫と中上健次の比較対照、古典の翻案や翻訳、ジェンダー／クィアフェミニズム批評などの考察を行っていく予定である。歴史や社会との関わりのなかで文学テクストを読み、文学を通じて社会や世界を思考し批評する術を身につけることを目指す。	集中・隔年
	言語文化特別講義D	日系アメリカ作家 カレン・ティ・ヤマシタの代表作品を読むことで、異文化、ボーダー問題を日系作家がどのように見ているのかという問題にせまる。ヤマシタだけでなく様々な作家も知ってもらいたいため、隨時対比しうる作家（イギリスやカナダ、日本）をも授業の一環とする。ジェンダー的観点からも作品を考察する。	集中・隔年

特 殊 研 究 科 目	言語文化特殊研究 I A	<p>(概要)</p> <p>博士前期課程での研究成果を踏まえ、博士後期課程での各自の研究テーマの有効性と問題点を検討する。研究テーマ確定後に、その分野の大枠となる基本文献リストを作成し、資料調査が必要な場合はその実施方法について検討する。論文執筆と不可分である研究倫理に関しては、博士前期課程で開講している「研究の倫理と方法」を未履修の者に聴講するように指導し、当授業でも講義の部分で再確認を行う。有益な研究資料の追加等に関しては他分野の教員から「言語文化総合演習」等で適宜アドバイスを受け、それを活かすよう指導する。</p> <p>ここでは、主に、先行論文を読み解きながら研究指導教員と研究方法論について討議をおこなうことにより研究者に必要な知識と分析方法を再確認する。</p> <p>(長岡 真吾)</p> <p>アメリカ文学、特に米国の歴史／社会と作家／表現技法／文化表象との関わりなどを主たる研究テーマとする学生を対象に、博士論文を執筆するために必要な方向付けを行い、基本文献精読を通して研究への導入を行う。</p> <p>(坂本 浩一)</p> <p>日本語研究領域においてはとりわけ近代日本語に関する研究課題設定とその調査方法論についての基礎固めを重点的に行い、成果を「博士課程後期における研究調査計画」として指導教員に提出する。</p> <p>(大久保 順子)</p> <p>日本の小説・俳諧等の作品や作家とその様式を博士課程の研究テーマとする学生を対象に、該当分野の基本的な論文と作品本文の講読を通して、研究の方向づけを指導する。</p> <p>(宮川 美佐子)</p> <p>イギリス文学の授業では、より的確な研究テーマを確定するため受講者が研究対象として希望する作家や主題の周辺事情、近年の研究動向についても併せて考察する。</p>	
	言語文化特殊研究 I B	<p>(概要)</p> <p>文献・資料のリストに沿って未読かつ重要なものから順に、講義を交えながら演習形式で精読する。また受講者は、自分のテーマに関係する研究方法及び最近の研究の動向をまとめる。科目担当者は適宜講義を行う中で、受講者の理解度を確認する。その上で、受講者は博士論文のテーマに関連する先行研究をレポートとして作成し自分の論文の意義と位置づけを明確化する。</p> <p>ここでは、主に、先行論文の講読を通じて、批判力や分析力の高次化を目指す。</p> <p>(長岡 真吾)</p> <p>様々なメディアを活用して研究に役立つ文献の収集法をアドバイスし、論文の構想に広がりと先進性を出せるように指導する。</p> <p>(坂本 浩一)</p> <p>日本語研究領域においては学生の研究計画に基づいて調査対象の研究上の特質・留意点の討議を続けつつ近代日本語に重点を置いた先行研究講読と基礎的データの作成を進め成果をまとめる。</p> <p>(大久保 順子)</p> <p>I Aの研究の方向づけに基づき、日本の小説や俳諧等の関連研究論文と諸作品の精読を行い、提起された問題点についての議論と追考を通して、研究の展望を拓げるよう指導する。</p> <p>(宮川 美佐子)</p> <p>イギリス文学の授業では、I Aで確定させた研究テーマを、より幅広い視野で適切に理解するため、引き続きそのテーマに関連する他の作家、同時代の文化や社会との関連、主題の歴史的経過を併せて研究する。</p>	

特 殊 研 究 科 目	言語文化特殊研究Ⅱ A	<p>(概要)</p> <p>引き続き博士論文を書き進めるために、直近に出版・公表された文献講読とそのまとめを行う。また、これまでに行った独自の資料調査を整理し、演習で調査結果の解釈や取り扱いに関して検討を重ねる。授業と平行して、博士論文の一部となる、2本目の論文を作成し、口頭発表や学会誌での論文公表をするための指導を行う。</p> <p>ここでは、主に、それぞれの課題に関連した調査研究の発表を通じ、解析方法の適否を検討する。</p> <p>(長岡 真吾)</p> <p>これまでの研究成果を総合し、口頭発表や論文執筆という成果発表までの方法論を実践的に学ぶ。それを博士論文執筆に応用・発展させることができないように指導する。</p> <p>(坂本 浩一)</p> <p>日本語研究領域では近代日本語に重点を置いて資料分析に関する先行研究の手法を吟味しながら調査方法の修正を重ねる。成果を発表し討議を行う中で分析考察上の問題点をデータ収集を進めながら洗い出す。</p> <p>(大久保 順子)</p> <p>I A・I Bで提起された日本の小説・俳諧等に関する研究課題についての諸資料の収集、調査及び考察、さらにレポートの作成と研究発表を通して、受講者の研究能力を磨く。</p> <p>(宮川 美佐子)</p> <p>イギリス文学の授業では、各種アンソロジーやケースブックなどを活用して、現代批評理論・文化理論についても理解を深め、これらのものを援用する、あるいは自分が研究手法に用いなくてもその意義が理解できるように研究を進める。</p>
	言語文化特殊研究Ⅱ B	<p>(概要)</p> <p>引き続き博士論文を書き進めるために、直近に出版・公表された文献講読とそのまとめを行う。また、これまでに行った独自の資料調査を整理し、演習で調査結果の解釈や取り扱いに関して検討を重ねる。授業と平行して、博士論文の一部となる、2本目の論文を作成し、口頭発表や学会誌での論文公表をするための指導を行う。</p> <p>ここでは、主に、それぞれの課題に関連した調査研究の発表を通じ、解析方法の適否を検討する。</p> <p>(長岡 真吾)</p> <p>II Aでの研究発表結果を点検し、問題点の明確化、改善方法の検討を行い、次回の研究発表と博士論文執筆に活かせるように指導する。</p> <p>(坂本 浩一)</p> <p>日本語研究領域では近代日本語について重点的に先行研究批判を行なながら調査を進め、データを電子化して数量的分析に活かすとともに研究発表や論文発表での成果報告に結びつける。</p> <p>(大久保 順子)</p> <p>II Aで行った研究発表の検討を踏まえ、その研究視点を専攻分野の今日の研究動向の中に位置づけ、作品の解釈と分析についての考察を深めて論文作成を行うよう指導する。</p> <p>(宮川 美佐子)</p> <p>イギリス文学の授業では、Project Muse や MLA Bibliography を活用して、受講者の研究テーマに関連する最新の文献を収集し、講読することで研究を深める。</p>

特殊研究科目	<p>言語文化特殊研究Ⅲ A</p> <p>(概要) この時期までに博士論文のまとめを行い、予備論文を概ね完成させる。その一環として、当授業でも予備論文内容に検討を加え、必要に応じて補完すべき知識の教授や方法論の助言を与える。論文の使用言語が英語の場合、英語表記に関する確認指導も行う。 ここでは、主に、予備論文までの成果をまとめた研究報告を通して、博士論文の完成を目指す。</p> <p>(長岡 真吾) 執筆中の博士論文の論旨の一貫性、構成や表現の適切さ、本文と文献リストの表記方法の正確さなどを入念に確認し、適切な修正をほどこせるように指導する。</p> <p>(坂本 浩一) 日本語研究領域においては予備論文をまとめながら、調査方法・データ処理・分析考察・結論各部分について学術的妥当性の面から検討を重ね修正を加えていく。</p> <p>(大久保 順子) 研究成果のまとめが的確になされているか、予備論文で概要を確認し、日本文学研究用語の用い方や論文構成、論述の展開等についても指導を行う。</p> <p>(宮川 美佐子) イギリス文学の授業では、博士論文完成に向けて、その主題と各章の関連、構成、内容、表現の適切性について精査する作業に入る。引証リストに洩れがないかチェックする。</p>
	<p>言語文化特殊研究Ⅲ B</p> <p>(概要) 博士論文を完成させ、公開審査に備えるために授業内で講義と演習を行う。論文審査後、受理された場合は公表に向けての指導を演習形式で行う。ここでは、博士論文の公開審査に向けての論文概要や補助資料を作成する。</p> <p>(長岡 真吾) 出来る限り長く推敲に時間を費やせるように早めに最終稿を完成させ、可能であれば同分野や近接分野の教員のアドバイスも必要に応じて受け、修正に活かすように指導する。</p> <p>(坂本 浩一) 日本語研究領域においては研究成果の博士論文としての完成を急ぐ。公開審査に向けて細部のチェックを繰り返して適切な要約レジュメ・データ資料類を作成する。</p> <p>(大久保 順子) 学位論文の完成までの推敲と確認作業、追加資料の作成などについて指導し、公開審査に向けて論文提出後の検討課題を明確にさせる。</p> <p>(宮川 美佐子) イギリス文学の授業では、博士論文完成に際し、達成できたことと残された課題の確認も含めて論文を総括する。</p>

社会科学専攻

授業科目の概要			
科目区分	授業科目等の名称	講義等の内容	備考
総合演習科目	社会科学総合演習A	<p>社会科学総合演習では、大学院生それぞれが自ら進捗させてきた研究成果について他分野の教員及び大学院生と討議することにより、研究課題の多角的な視点からの深化や独創的な手法を用いた研究の進展を目指す。</p> <p>本演習では、博士論文のテーマ設定を行うための先行研究のレビューの仕方、文献の読み方に焦点を当て、領域横断的な視点からの分析力や批判力の育成を通して発展性や独創性のある研究課題を発見する能力を養う。</p>	共同
	社会科学総合演習B	<p>社会科学総合演習では、大学院生それぞれが自ら進捗させてきた研究成果について他分野の教員及び大学院生と討議することにより、研究課題の多角的な視点からの深化や独創的な手法を用いた研究の進展を目指す。</p> <p>本演習では、博士論文の完成に向けて蓄積した研究成果の外化に焦点を当て、学会発表の仕方や学術論文の構成について領域横断的な視点から批評を受けることによって総合的なプレゼンテーション能力を養う。</p>	共同
	社会科学総合演習C	<p>社会科学総合演習では、大学院生それぞれが自ら進捗させてきた研究成果について他分野の教員及び大学院生と討議することにより、研究課題の多角的な視点からの深化や独創的な手法を用いた研究の進展を目指す。</p> <p>本演習では、博士論文の学術的価値の明晰化に資する方法論に焦点を当て、データの収集法及び分析法、研究課題の社会的意義づけ等を領域横断的な視点から検討し、新規性に富む研究を遂行する応用力を養う。</p>	共同
専門科目	社会科学特別講義 (国際関係分野)	未定	集中・隔年
	社会科学特別講義 (経済分野)	本講義では、経済学と心理学を融合した新しい学問領域である行動経済学を取り上げる。講義の前半では、行動経済学の基礎概念であるヒューリスティックやプロスペクト理論およびナッジ理論を取り上げ、講義の後半では、それらの概念や考え方をマーケティングや企業経営、医療の諸問題へ応用し、解決策を検討する。	集中・隔年
	社会科学特別講義 (経済分野)	本講義の目的は、経営学の「総合的アプローチ」すなわち、経営管理、労務管理、生産管理、意思決定、そしてコーポレートガバナンスの個別的分野から、日本企業が特徴的に用いてきた日本の経営について論ずることにある。日本の経営は日本の経済社会文化の中にどのように形成されてきたのか、また、現代の日本の伝統文化および環境要因の中で、どの程度変化しつつあるのかについても議論する。まず、日本経済とビジネスの歴史的転換点について概観した後、以下のトピック、雇用慣行(終身雇用や年功序列)、教育訓練(社内外教育訓練や経営者教育)、労使関係(企業別組合や春闘)、意思決定、生産管理(TQC、JIT、Kanban、下請けや系列)、企業ガバナンスに関して考察を行う。なお、受講者と協議を行いつつ個別の企業の事例を適宜取り上げていく。	集中・隔年
	社会科学特別講義 (国際関係分野)	未定	共同

研修科目	国際社会特殊研修	自らの専攻分野の有用性を理解して、国際社会における課題解決に生かすことができるよう研修先で実務を体験する。こうした実社会での能動的学习と実践を通して、修得した理論の蓄積を拡張させるのみならず、高度専門職業人に必須の資質を高めることを目的としている。研修先としては、国内外の公的機関および研究所等において将来のリーダーとなる人材を研修生として受け入れている機関を設定しているので、受講者各自で研修先とプログラムを確認し、選定の上交渉することとする。	共同
特殊研究科目	社会科学特殊研究 I A	<p>(概要)</p> <p>博士前期課程における研究成果を踏まえ、博士後期課程における研究テーマの設定を目標とする。設定した研究テーマに係る文献・資料調査の能力を高めるため、研究指導教員からの指導に基づき調査計画を立て、実施する。なお、副指導教員に対しても適宜研究の進捗状況を報告するとともに、論文執筆に向けた助言を受ける。</p> <p>(宮崎 聖子)</p> <p>家族・地域・国家としての経営理念や組織文化について、広く文献を涉猟させる。文献精読を通して、経営の国際化の目的について理解を深め、国際経営に関する基礎概念や方法論を修得する。</p> <p>(佐藤 秀樹)</p> <p>育児、知的財産、地方分権といった人口に膾炙する政策課題に関して、それらの各々を経済学的に把握し、政策的インプリケーションを解釈することができる能力を涵養する。</p> <p>(鈴木 有美)</p> <p>組織あるいは社会における人間行動に関する問題意識を深め、関連する先行研究を広くレビューする。文献精読を通して、ウェルビーイングや幸福の概念を中心に、政治・経済・経営・教育といった社会活動において適応を目指す人間の心理行動科学の基礎を身に付ける。</p> <p>(馬場 優)</p> <p>外交史及び国際政治史の文献の精読を通じて博士論文執筆に向けた構想をまとめる。</p> <p>(深町 朋子)</p> <p>国際法の理論的文献の精読を通じて、国際法の体系性と理論的研究の方法論について理解を深める。</p> <p>(ばすましり じややせーな)</p> <p>平和研究及び批判的安全保障の文献の精読を通じて、平和学の理論的研究の方法論について理解を深める。</p> <p>(木村 貴)</p> <p>体制移行期における人権保障制度の強化に関する問題意識を深め、関連する理論的文献の精読を通じて博士論文執筆に向けた構想をまとめる。</p> <p>(徐 阿貴)</p> <p>グローバリゼーションに関わる諸現象を国際社会学、フェミニスト政治経済の視点から把握し分析する能力を習得する。</p> <p>(山根 健至)</p> <p>比較政治学の理論的文献の精読を通じて博士論文の執筆に向けた構想をまとめる。</p>	

特 殊 研 究 科 目	社会科学特殊研究ⅠB	<p>(概要) 基礎文献の選択の後、講義を通じて論文のテーマに関連する研究方法・最新研究の動向を確認する。受講者は博士論文の執筆に向けて先行研究を整理し、自らの論文の研究上の意義を明確にする。</p> <p>(宮崎 聖子) IAで扱ったテーマをもとに、ジェンダー・エスニシティなどの分析を事例とする先行研究を講読し、自らの研究の位置づけを確認していく。</p> <p>(佐藤 秀樹) 1年前期に涵養した能力を更に深化させ、市場経済全体を経済学的に把握する。そして、市場の機能がもたらし得る社会なアウトカムと政府がなすべき役割とを理論的に理解する。</p> <p>(鈴木 有美) 心理統計の基礎やデータ解析といった心理計量学の理解を深めるとともに、心理行動科学における多様な研究方法の中から、自らの研究テーマに適した研究方法を選択し、研究発表の構想をデザインできるように指導する。</p> <p>(馬場 優) 外交史及び国際政治史の文献を精読し、受講者の研究関心に応じた先行研究の精読を進め、研究の方向性を導き出すように指導する。</p> <p>(深町 朋子) 国際法の先端的文献の精読を通じて、国際法の現代的展開についての理解を深め、研究の方向性と意義を明確にする。</p> <p>(ぱすましり じややせーな) 平和研究及び批判的安全保障の文献を精読し、各自の研究テーマを掘り下げ、先行研究を収集させる。</p> <p>(木村 貴) IAにおいて関心を持ったテーマに関する先行研究を収集、整理する。</p> <p>(徐 阿貴) 国境を超える人の移動、労働市場と家族の再編、シティズンシップ法制度のリンクエージに關わる基礎文献を精読する。各自の研究テーマを掘り下げ、先行研究を収集する。</p> <p>(山根 健至) 比較政治学の理論的文献を精査し、受講者の研究関心に応じた先行研究の講読を進め、研究の方向性を導き出すように指導する。</p>	
----------------------------	------------	--	--

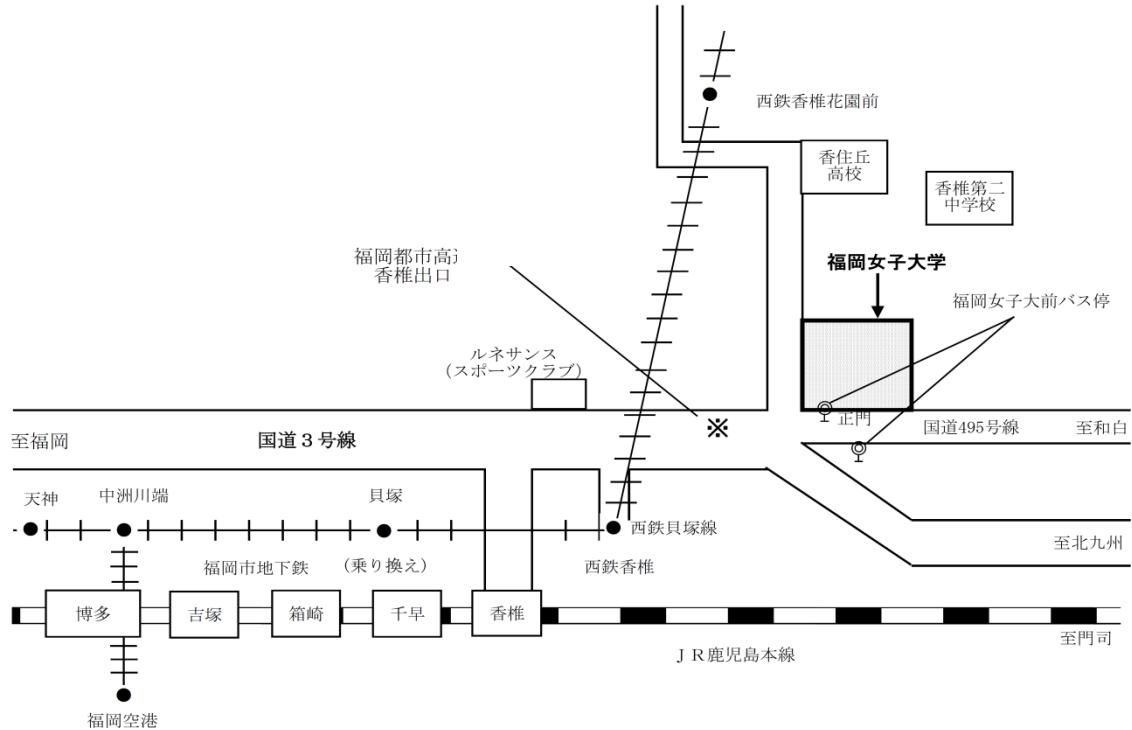
特 殊 研 究 科 目	社会科学特殊研究Ⅱ A	<p>(概要) 1 年次の研究を踏まえ、研究テーマの専門領域に関する資料・データ収集、それらの整理・分析をすすめる。博士論文の一部を構成するテーマについて、受講者は先行研究を整理しつつ、研究テーマを練り上げていく。各自の研究課題に関連した調査研究の発表を通じ、博士課程における研究課題の報告・議論の手法を修得する。</p> <p>(宮崎 聖子) IA・IB で扱ったテーマをもとに、各自の研究関心に応じてフィールド・ワークを実施する。</p> <p>(佐藤 秀樹) 先端的研究への橋渡しとして、市場-政府間関係のみならず法・制度をも考慮した新しい政策論に関する文献的系譜をレビューする。</p> <p>(鈴木 有美) 大学院生が自ら計画した研究発表を実行に移すことができるよう指導する。受講者が自らの論文構想に対して批判的な検討が行えるようになり、論文執筆の準備を整える。</p> <p>(馬場 優) 外交史及び国際政治史の研究に関連する政治学や国際政治学の理論に関する文献を使って、政策決定過程の展開について理解を深める。</p> <p>(深町 朋子) 論文構想の一部を構成するテーマについて、先行研究・関連判例・資料の講読および精査を行う。</p> <p>(ぱすましり じややせーな) 1 年次において収集した先行研究を整理し、批判的に精読する。最新の研究動向を把握しつつ各自の問題意識を明確にさせる。</p> <p>(木村 貴) 1 年次に収集、整理した先行研究を批判的に精読し、各自の問題意識を明確にする。必要に応じて、フィールドワークを行う。</p> <p>(徐 阿貴) 収集した先行研究を整理し批判的に精査する。最新の研究動向を把握しつつ研究テーマを明確化する。博士論文の構想を具体化させ、調査対象に関する情報収集と絞りこみを行い、最適な調査手法を選択、計画的に実行していく。</p> <p>(山根 健至) 比較政治学の古典的な理論研究に加え、現代の比較政治理論の展開について理解を深める。</p>

特 殊 研 究 科 目	社会科学特殊研究Ⅱ B	<p>(概要) 学位論文の構想を確定し、学位論文構想を反映したレポートもしくは論文の幸彌麻を進める。既存研究の整理を済ませるとともに、学位論文の構想を発表し、研究指導教員、副指導教員および他分野の教員からの批判的考察を受ける。</p> <p>(宮崎 聖子) 各自の研究関心に応じたフィールド・ワークを踏まえ論文執筆に必要な理論枠組み・研究手法などを論文構想に盛り込み、博士論文執筆に向けた報告を行う。</p> <p>(佐藤 秀樹) 2年前期に蓄積した知識に基づいて、法と経済学もしくは公共経済学等に関する先端的研究を精読し、オリジナリティーを開拓する。また、学会報告の予行や報告後の対応についても適切に指導する。</p> <p>(鈴木 有美) これまでの研究成果を投稿論文にまとめさせる。査読コメントに適切に対応する論文修正作業を通して、研究者としての素養と能力の向上を図り、論文が採択されるよう指導する。その論文を中心に組み込んだ博士論文の構想をまとめさせる。</p> <p>(馬場 優) 外交史及び国際政治史の先行研究の整理を終え、博士論文執筆に向けて論文構想を進める。</p> <p>(深町 朋子) 先行研究・関連判例・資料の講読および精査を終えるとともに、論文構想の発表と批判的検討を行う。</p> <p>(ぱすましり じややせーな) 平和研究及び批判的安全保障の先行研究の整理を終え、博士論文執筆に向けて論文構想をまとめさせる。</p> <p>(木村 貴) 各自の問題意識に相応しい理論的枠組み・研究手法などを構築し、博士論文執筆に向けて論文構想を進める。</p> <p>(徐 阿貴) 先行研究および調査で収集したデータに基づき、各自の研究関心に最適な分析枠組みを設定する。研究理論と調査対象の間を往還しつつ、データの分析整理を進める。</p> <p>(山根健至) 比較政治学の基礎文献・先行研究の整理を終え、博士論文執筆に向けて論文構想を進める。</p>

特 殊 研 究 科 目	社会科学特殊研究ⅢA	<p>(概要) 社会科学特殊研究Ⅱにおいてまとめた博士論文の構想を基に、学位申請のための予備論文を作成させ、提出させるための指導を行う。提出後は、予備論文審査に合格させるための指導を行う。</p> <p>(宮崎 聖子) ジェンダー・エスニシティなどの分析事例を確認しつつ、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめる。</p> <p>(佐藤 秀樹) 学会報告論文の改訂と相俟って、その論文に直結した先駆的研究以降の文献的系譜を丹念にレビューし、博士論文を構想する。更に、学会報告の予行や報告後の対応についても指導する。</p> <p>(鈴木 有美) 2年次においてまとめた博士論文構想から学位申請のための予備論文を作成し、提出させる。予備論文審査に合格できるよう指導を行う。</p> <p>(馬場 優) 受講者の博士論文のテーマを先行研究や関連する一次史料、さらにテーマに関する理論研究をもとに、博士論文構想を具体化させ、予備論文にまとめる。</p> <p>(深町 朋子) 最新の判例や研究の展開を適宜確認しつつ、論文構想に沿った予備論文の作成を行う。</p> <p>(ぱすましり じややせーな) ⅡBにおいてまとめた博士論文構想から学位申請のための予備論文を作成し、提出させる。</p> <p>(木村 貴) 分析事例を理論的枠組みに基づき博士論文構想をより具体化させ、予備論文をまとめる。</p> <p>(徐 阿貴) 分析結果から得られた示唆を整理し、博士論文を執筆する。博士論文の構成に沿って予備的論文を執筆し、研究発表に寄せられたコメントをもとに軌道修正を行う。</p> <p>(山根 健至) 比較政治学の理論的文献を精査し、受講者の研究内容を深めて、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめる。</p>

特殊研究科目	社会科学特殊研究ⅢB	<p>(概要) 予備論文審査合格を経て、博士論文提出資格を得た大学院生に対する助言を中心として授業を進める。これまでの研究成果を博士論文として結実させるとともに、博士論文提出後は公開審査に合格するための指導を行う。</p> <p>(宮崎 聖子) ジェンダー研究に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(佐藤 秀樹) 3年前期の構想に基づき、経済分野における政策論として従前の研究成果を整理し、博士論文に結実させる。</p> <p>(鈴木 有美) これまでの研究成果を基に、社会活動における適応をテーマとした心理行動科学に関する博士論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(馬場 優) 外交史・国際政治史に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(深町 朋子) これまでの研究成果に基づいて国際法に関する博士論文をまとめ、公開審査のための準備を行う。</p> <p>(ぱすましり じややせーな) これまでの研究成果に基づいて平和研究及び批判的安全保障に関する学位論文を完成させ、学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(木村 貴) 体制移行期の人権保障に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(徐 阿貴) 国際移動に現れるジェンダービルトとその再編に関する学位論文の完成に向けて指導を行う。</p> <p>(山根 健至) 比較政治学に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。比較政治学の理論的文献を精査し、受講者の研究内容を深めて、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめる。</p>

8 交通案内



- ◎JR「香椎駅」から徒歩約15分(JR「香椎駅」には停車しない特急列車もあるのでご注意ください)
 - ◎天神方面からの地下鉄利用は、福岡市地下鉄「貝塚駅」で西鉄貝塚線乗換え「西鉄香椎駅」下車 徒歩約12分、「香椎花園前駅」下車 徒歩約10分
 - ◎西鉄バス「天神中央郵便局前」乗車、「福岡女子大前」下車
(天神から約15分【都市高速経由】:下表参照)

系統番号	始発・経由	所要時間	行先
21A	天神中央郵便局前 【都市高速経由】	15分	雁の巣レクリエーションセンター
23A	天神中央郵便局前 【都市高速経由】	15分	西鉄三苦駅
25A	天神中央郵便局前 【都市高速経由】	15分	志賀島小学校前
26A	天神中央郵便局前 【都市高速経由】	15分	赤間営業所、新宮中央駅東口・IKEA前、光陽台六丁目、津屋崎
21	天神中央郵便局前	33分	雁の巣レクリエーションセンター
23	天神中央郵便局前	33分	西鉄三苦駅、大蔵・高美台 ※下原行は福岡女子大前に停車しませんので注意してください。
26	天神中央郵便局前	33分	赤間営業所、福間駅前

**(付) 2026年度春入学者対象福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻【博士後期課程】学生募集要項**

(一般選抜入試・社会人特別選抜入試・留学生特別選抜入試・福岡女子大学大学院博士前期課程修了者特別選抜入試)

1 募集人員

言語文化専攻2人、社会科学専攻2人

なお、志願者は「2 出願資格」の(1)~(4)の中から該当するものを選択すること。

2 出願資格

(1)一般選抜入試

次の各号の一に該当する女子が出願できる。

- ① 修士の学位や専門職学位を有する者（学校教育法第102条第1項）及び入学時までに取得見込みの者
 - ② 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（学校教育法施行規則第156条第1号）及び入学時までに学位を授与される見込みの者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（学校教育法施行規則第156条第2号）及び入学時までに学位を授与される見込みの者
 - ④ 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校）を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（学校教育法施行規則第156条第3号）及び入学時までに学位を授与される見込みの者
 - ⑤ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（学校教育法施行規則第156条第4号）及び入学時までに学位を授与される見込みの者
 - ⑥ 文部科学大臣の指定した者（学校教育法施行規則第156条第6号）
 - ⑦ 大学院において個別の入学資格審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時までに原則24歳に達する者
- ※ 上記（1）⑦の資格で出願する者は、事前審査が必要であるため18ページ「出願資格の事前審査について」を参照すること

(2)社会人特別選抜入試

入学時点で、大学院修士課程修了後、社会人として3年以上の経験を有する女子で、上記（1）の①から⑦のいずれかの出願資格を有するものが出願できる。

※ 上記（1）⑦の資格で出願する者は、事前審査が必要であるため18ページ「出願資格の事前審査について」を参照すること

(3)留学生特別選抜入試

日本の国籍を有しない女子で、次の各号の一に該当するものが出願できる。

- ① 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第1号）又は入学時までに学位取得見込みの者
 - ② 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校）を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第3号）又は入学時までに学位取得見込みの者
 - ③ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第4号）又は入学時までに学位取得見込みの者
 - ④ 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - ⑤ 本学大学院において個別の入学資格審査により修士の学位と同等以上の学力があると認めた者で、原則（入学時までに）24歳に達したもの
- ※ 上記（3）⑤の資格で出願する者は、事前審査が必要であるため18ページ「出願資格の事前審査について」を参照すること

(4)福岡女子大学大学院博士前期課程修了者特別選抜入試

福岡女子大学大学院博士前期課程を修了した女子が出願できる。

なお、「修了見込み」の者であっても、すでに修士論文を提出している場合は出願できる。

◎ 出願資格の事前審査について

19 ページ「2 出願資格 (1)⑦ または (3)⑤」のいずれかにより出願しようとする者についての「修士の学位と同等以上の学力」の認定は、次により行う。なお、必要のある場合は学力検査、面接等を行う。

(1) 提出書類

書類等	摘要
ア. 入学者選抜出願資格認定申請書	本研究科所定の様式によること。
イ. 「7出願手続」に定める書類 (但し、入学考査料を除く。)	本募集要項「7出願手続」に定める書類 (入学考査料は納入しないこと。)

上記ア及びイは、一括して提出すること。なお、郵送する場合は必ず書留速達とし、封筒表面に「大学院人文社会科学研究科出願書類及び出願資格認定申請書在中」と朱書きすること。

(2) 提出期間

秋季試験 2025年7月22日(火)～7月25日(金)17時まで必着

春季試験 2025年12月1日(月)～12月5日(金)17時まで必着

(3) 認定の結果

認定の結果は、次の期日までに本人に郵便又は電話で通知する。

秋季試験 2025年8月1日(金)

春季試験 2025年12月19日(金)

※ 認定された者は、19 ページ「6 出願期間」の期間内に「7 出願手続 (7) 入学考査料」に記載する方法により入学考査料を納入すること。

3 試験日

秋季試験 2025年9月27日(土)

春季試験 2026年2月8日(日)

4 試験場

福岡女子大学(福岡市東区香住ヶ丘1-1-1)

交通機関については、16 ページを参照すること。

5 試験科目 ※秋季試験、春季試験とも同じ試験科目、同じ時間帯で実施する。

言語文化専攻 博士後期課程			
区分	10:00～12:00(120分)	13:30～	
一般選抜入試	筆記試験	・専門分野※1 ・外国語(選択)※2または資料読解	修士論文および今後の研究に関することなど(修士論文またはこれに準じる学術論文を審査の対象とする)
社会人特別選抜入試		・専門分野	
留学生特別選抜入試		・専門分野	
福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜入試		・専門分野	
		・専門分野	

※1 英語圏の言語文化に関する研究領域志願者については、専門分野の出題に英語以外の外国語を一部用いることがある。

※2 一般選抜入試の外国語については、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語から1つ選択。なお、母語は外国語として選択できない。

社会科学専攻 博士後期課程			
区分	10:00～12:00(120分)	13:30～	
一般選抜入試	筆記試験	・専門分野に関する外国語(読解)※1	修士論文および今後の研究に関することなど(修士論文またはこれに準じる学術論文を審査の対象とする)
社会人特別選抜入試		・専門分野※2	
留学生特別選抜入試		・専門分野※2	
福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜入試		・専門分野※2	
		・専門分野※2	

※1 外国語については、英語・ドイツ・フランス語・中国語・韓国語から1つ選択。なお、母語は外国語として選択できない。

※2 専門分野の出題については外国語を用いることがある。

6 出願期間

秋季試験 2025年8月18日（月）～8月22日（金）17時まで必着

春季試験 2026年1月9日（金）～1月19日（月）17時まで必着

7 出願手続

入学志願者は、次の書類を「6 出願期間」の期間内に本学アドミッションセンターに提出すること。

出願書類を郵送するときは、必ず書留速達とし、封筒表面に「大学院人文社会科学研究科博士後期課程入学願書」と朱書きすること。

なお、提出された出願書類及び納入金は原則として返還しない。また、出願書類に不備があるものは、受理しない。（該当書類が英語以外の外国語表記の場合、必ず和訳文または英訳文を添付すること。）

（1）入学願書及び受験票

本研究科所定様式（本要項に添付）を使用のこと。

（2）研究志望調書及び研究計画書

本研究科所定様式（本要項に添付）を使用のこと。

研究計画書については、本研究科の定める以下の【作成要領】に従うこと。

【研究計画書作成要領】

大学院入学後の研究計画について、4000字程度で作成すること。A4判の用紙（縦置き）に12ポイントの文字で、1頁を1050字相当（1行35字で30行）に設定の上、横書きとする。英語でも可。

但し、以下①～④の諸事項に関して、バランス良く記述すること。

① 主たる研究課題の題目及びその要旨

② その研究課題を定めるに至った経緯（例えば、修士論文との関連性など）

③ 研究課題についての具体的な計画

④ その研究のもつ学術的な意義

なお、この研究計画書は、修士論文とともに、面接試験の際の重要な資料となるものであるから、十分に練り上げたものにすること。

（3）成績証明書（英語以外の外国語表記の場合、必ず和訳文または英訳文を添付すること）

出身大学院の学籍原簿の写し又はそれに相当する単位取得を証明するもの。（要厳封）

（4）最終大学院の修了証明書又は見込証明書（英語以外の外国語表記の場合、必ず和訳文または英訳文を添付すること）

（5）修了証書、学位書（原本あるいはコピーを提出すること。）

（英語以外の外国語表記の場合、必ず和訳文または英訳文を添付すること）

（6）修士論文。また、修士論文以外の研究成果物がある場合は、それも併せて提出すること。修了見込みの者は、修士論文にかわるものも提出すること。いずれも、コピー可。ただし、原則として返却しない。

（英語以外の外国語表記の場合、必ず和訳文または英訳文を添付すること）

（7）入学考查料

入学考查料は30,000円。納入方法は、銀行窓口での振込「電信扱」に限る。納入後は、原則として返還しない。本要項最終ページの入学考查料振込依頼書を切り離し、太枠で囲まれている記入欄に必要事項をすべて黒ボールペンで正確・明瞭に記入し、A・B・C票を切り離さず銀行へ持参すること。ただし、振込手数料は志願者負担。振込の後、銀行窓口で返還されたB・C票のうち、C票（「福岡女子大学（大学院）」入学考查料振込金受付証明書）を、入学願書裏面の入学考查料振込金受付証明書貼付欄に貼ること。

（8）写真（2枚）

たて4cm×よこ3cm、正面半身、無帽、無背景、出願期間以前3ヶ月以内に撮影したもの2枚をそれぞれ入学願書、受験票に貼付すること。

（9）受験票返信用封筒

返信用封筒（長形3号120mm×235mm）に郵便番号、住所、氏名を記入し、110円切手を貼付すること。

（10）在職期間証明書（社会人特別選抜入試志願者のみ）

本研究科所定様式（本要項に添付）を使用のこと。

（11）受験許可書（現職のまま入学しようとする者）

本研究科所定様式（本要項に添付）を使用のこと。会社及び官公庁・教育機関等に勤務している者で現職のまま入学しようとする者は、受験について所属長の許可書を提出すること。

8 合格発表

秋季試験 2025年10月3日（金）

春季試験 2026年2月13日（金）

合格発表日の10時頃、本学車両正門横の掲示板に掲示するとともに、合格者には本人あてに郵送で通知する。なお、本学のウェブサイトにおいても合格者の受験番号を掲載する。ただし、公式の合格発表については、必ず本学掲示板又は合格通知書で確認すること。電話による合否の問い合わせは一切受け付けない。

9 入学手続

(1) 入学手続期間

秋季試験合格者 2025年10月7日（火）～10月14日（火）17時まで

春季試験合格者 2026年2月17日（火）～2月25日（水）17時まで

（郵送の場合、必ず書留速達とし、秋季試験合格者は10月14日（火）17時までに、春季試験合格者は2月25日

（水）17時までに必着のこと）持参の場合、受付時間は9時から17時までとする。土・日・祝日は行わない。

上記期間中に手続を完了しない場合、入学を辞退したものとして取り扱う。

(2) 提出書類

ア. 誓約書（本研究科所定のもの。合格通知書と同封して郵送する。）

イ. 住民票（留学生特別選抜入試については、市町村長が発行する在留資格及び在留期間を明記したもの。出願者以外の世帯員については証明不要）

ウ. 外国人で入学許可が出国の要件となっている国外在住者については、外務省在外公館又は日本国政府の承認した外国政府その他の発行する留学資格証明書・紹介状・推薦書等

エ. その他必要書類等は、合格通知とともに通知する。

(3) 納入金（2025年度実績）

入学料 県内の者 282,000円

県外の者 520,000円

授業料 半期分 267,900円（年額535,800円）

※ 入学手続きでは入学料のみの納入となります。

※ 入学料について「県内の者」とは、（ア）入学しようとする者の生計の主たる維持者が入学しようとする年の前年の3月1日から入学許可の日まで引き続き福岡県内に居住している者、（イ）入学しようとする者の生計の主たる維持者が勤務等の事由により県外居住者であっても、入学者を含む家族の大半が（ア）に掲げる期間中福岡県内に居住している者をいう。なお、上記の県内居住については、住民票が期間中県内にあるかどうかにより判断する。「県外の者」とは、上記以外の者をいう。

※ 在学中に授業料の額の改定が行われた場合には、改定後の授業料の額が適用される。

※ 福岡女子大学大学院博士前期課程修了後引き続き本学博士後期課程に進学する場合は、入学料は徴収しない。

ただし、本学大学院博士前期課程修了後1年以上経過してからの入学者については、入学料を徴収する。

※ 令和6年能登半島地震により被災した福岡女子大学志願者の入学料及び入学考查料について免除の特例措置を実施します。

詳しくはURLをご覧ください。http://www.fwu.ac.jp/exam_info/2024/

(4) 入学手続場所

福岡女子大学 アドミッションセンター 〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号

TEL 092-692-3100

(5) その他不明な点は、下記まで問い合わせること。

福岡女子大学 アドミッションセンター 〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号

TEL 092-692-3100

◎ 障害がある入学志願者の事前相談

障害がある入学志願者で、受験上および修学上配慮を必要とする者は、相談に応じますので、事前にアドミッションセンター（092-692-3100）にご相談ください。

◎ 留学生への支援制度（2025年度実績）

留学生として本学大学院に入学した者（県外の者に限る）には、その入学時の成績等により、入学金が半額となる制度及び、入学後の研究計画書の内容と面接により、授業料が半額になる制度があります（ただし、制度を利用できる人数には限りがあります）。また、本学に設置されている学生寮に入寮することもできます（ただし、入寮できる人数には限りがあります）。

◎ 試験結果の開示

試験結果は受験者本人に限り、アドミッションセンターにおいて開示します。期間は、秋季試験は2025年10月21日（火）から10月31日（金）、春季試験は2026年4月1日（水）から4月10日（金）までです。ただし、いずれも9時から17時までとし、土・日・祝日は開示を行いません。開示を申請する際には、本学大学院入試の受験票をお持ちください。

2026年度春入学者対象福岡女子大学大学院人文社会科学研究科 【博士後期課程】 入試日程

秋 季 試 験	
出 願 期 間	2025年8月18日（月）～8月22日（金）17時まで
試 験 日	2025年9月27日（土）
合 格 発 表	2025年10月3日（金）
入 学 手 続 期 間	2025年10月7日（火）～10月14日（火）17時まで

春 季 試 験	
出 願 期 間	2026年1月9日（金）～1月19日（月）17時まで
試 験 日	2026年2月8日（日）
合 格 発 表	2026年2月13日（金）
入 学 手 続 期 間	2026年2月17日（火）～2月25日（水）17時まで

福岡女子大学大学院人文社会科学研究科入学願書（博士後期課程）

※ 履歴事項記入欄が不足する場合は任意の別紙に記入して添付すること

切り取らないこと

福岡女子大学大学院人文社会科学研究科入学受験票（博士後期課程）

フリガナ			
氏名			
受験番号	※記入しないこと		
試験日程 (いずれかを〇で囲むこと)	2025年9月27日（土）・2026年2月8日（日）		
志望専攻名 (いずれかを〇で囲むこと)	言語文化専攻	社会科学専攻	入学願書と同じ写真を貼付すること
選抜の区分 (いずれかを〇で囲むこと)	一般選抜入試・社会人特別選抜入試・留学生特別選抜入試 ・福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜入試		
専門分野に関する 外国語 (一般選抜志願者のみ)	英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語 (受験する外国語を一つを選んで〇で囲むこと)		

入学考査料振込金受付
証明書貼付欄

試験科目

筆記試験

10：00～12：00

面接試験

13：30～

受験上の注意

1. この受験票は試験当日必ず携帯し、試験室では机上におくこと。
2. やむを得ない理由で遅刻した場合、30分以内であれば受験を認める。
3. 試験開始の10分前に試験室に入室すること。

研究志望調書

氏名	フリガナ		受験番号	※記入しないこと。
選抜の区分 (該当する一つを○で囲むこと)		一般選抜入試・社会人特別選抜入試 留学生特別選抜入試 福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜入試		
志望専攻 ※1	言語文化 社会科学			
これまでの研究課題とその内容				
志望の動機				

※1の欄は、該当する項目を○で囲むこと。

これから的研究課題とその内容

入学者選抜入試出願資格認定申請書

福岡女子大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程に出願したいので、事前審査をお願いします。

年 月 日

氏名

印

住所

〒_____

最終卒業（修了）機関名

卒業（修了）年月日

年 月 日

受 験 許 可 書

福 岡 女 子 大 学 長 殿

受験者氏名 _____

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

上記の者が、福岡女子大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程の入学試験を受験することを許可します。

年 _____ 月 _____ 日

所属機関等住所（所在地）及び電話番号

〒 _____

電 話 番 号 _____

所属機関等名

所 属 長 名

印

在職期間証明書

現住所 〒

受験者氏名 _____

所属機関名（事業所名）			
職種			
在職期間又は在職した期間	自 至	年 月	日 月 日

証明年月日 年 月 日

住所（所在地） 〒

勤務先名 _____

職名 _____

氏名 _____ 印

※複数枚の証明が必要な場合は様式をコピーしてご使用ください

書頼依振込資料査考入學

切り取り

書 賴 依 振 入

「福岡女子大学（大学院）」入学参考資料

切り取り

要

振込金受取書

〔福岡女子大学（大学院）入学参考資料〕

年	月	日	円
金額	万	千	0000
振込先	福岡銀行 香椎支店		
受取人	フクオカカシヨンダイガク 福岡女子大学		
志願者 氏名	(フリガナ)		
	手数料		

(金融機関で切り離してください)

三

福岡女子大学（大学院）入学考査料
指針今受付訂正記事

年	月	日	
金額	貯	千	円
振込先	福岡銀行	香椎支店	
受取人	福岡女子大学		
志願者 氏名	(フリガナ)		

(振込後C票は切り離しのうえ、指定された貼付欄に貼りつけてください)

出納印

出 納 印

三 紡

（取扱金融機関保管）

【取扱金融機関へのお願ひ】

1. 収納印はA・B・C票の3ヶ所にもれなく押印してください。

2. B・C票は、必ず依頼人へお返しください。

第二輯

(入学考査料振込金受付証明書貼付用)